

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書4章23～30節＞

荒野の誘惑(4:1-13)が意味を持つ、イエス様を襲った最初の試練。

①郷里の人々によるイエス様の拒絶 — そこに見る人間の罪！

イエス様の恵み深い教え(15, 18, 19, 22：恵み深い神様についての教え)に心動かされる人が多くいた一方で、イエス様の郷里の人々はそれを素直に受け入れることができませんでした。なぜか？ 「イエス様のことを小さい時から知っている」という自信が邪魔をしたのです(22b)。イエス様が彼らの心の中を見通して言われた「カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ」(23)という言葉は、荒野で悪魔がイエス様に「奇跡を起こしてみろ」と告げた言葉と同じです(4:3, 9)。「自分は知っている」という時、人は悪魔になっているのです。私たちが持つ、神様の行為をも拒絶する傲慢の罪。まずその罪の重さ、手強さを真剣に考えたいと思います。

②旧約の預言者による奇跡の実行 — そこに見る神様の恵み！

イエス様は彼らに奇跡を起こして見せることはせず、むしろ、昔、神様が預言者エリヤとエリシャを用いて、同胞イスラエルの中にはなく、異邦人の中に奇跡を起こさせられたことを話して聞かされました。この話には私たちはイエス様を受け入れなかった人々への神様のお叱りと共に、神様の恵みは異邦人にも与えられるのだという福音(god news)を、しかも旧約聖書の時代からすでに神様はこのように恵み深い神様であられたのだという福音をしっかりと聞き取らなければなりません。

③信仰者の人生にも試練は訪れる。しかし、神様は必ず守って下さる！

「神様の恵みは傲慢な選びの民より異邦人に与えられる」と告げたイエス様は怒りに駆られた人々に殺されかけます(29)。しかし、聖書は神様がイエス様を守られたと記しています(30)。神様が奇跡を起こされたのです！ しかしこれ見よがしではない、読み過ぎしそうな描写です。ヨハネによる福音書では、「イエスの時はまだ来ていなかったからである」(ヨハネ 7:30, 8:20)と表現されています。私たちも、「自分で自分を守らねば」という必死な思いから解き放たれて、「神様がその時が来るまでは守って下さる」くらいに思って歩む者になりたいと思います。